1969.5.29　明治大学新聞

全明治の学友諸君へ

大学法案粉砕の闘いを

◇米田隆介

留置所で〝読書〟にあけくれ

早いもので逮捕されてから百日以上になりますが、元気に闘っています。安田講堂での二日間の激しい闘いの末、逮捕され成城署の留置所にブチ込まれた頃は、留置所に真冬のつめたい北風がスキマから吹きこんできていましたが、今はこの非人間的な独房にも、若葉の匂いを含んだ暖い五月の風が流っています。

東京拘置所は、昨年の夏一度来ていますから、今回で二度目です。ですから、勝手知ったる我が家―とまではいかなくとも、そのような気持で、生活しています。権力が与えてくれた、理論学習の時間を活用し、毎日、読書に耽っています。活動を始めてから、特に、委員長になってからは、ジックリとものを考える暇がなく走りながら考え、考えながら走り続けていましたが、この機会を利用して、今までの活動を抜返り総点検をしてみたい　と思っています。もちろん、この総点検は、即、次なる闘いのための理論強化、理論武装であり、こんど戦線に復帰するときには、逮捕される以前の地平より飛躍した地平から出発できるよう努力しています。

このように権力への理論を研究ますと同時に、今までの活動で大分ガタのきた体を休め、戦線復帰したら、すぐに思う存分活動できるよう、体力を養い、体を鍛えることも心がけています。規則正しい生活、十分な睡眠、恵まれた食事（？）のせいか、少し太ってきました。運動の時間には、頭に汗がにじむ程走り回り体を鍛えています。

こんな具合ですから、ここは頭脳を鍛え体を鍛えるための三年付無料国立道場みたいなものです。

4・28沖縄デー、その日は、夕方から外の諸君の活動如何とラジオに、耳を傾け、ラジオが刻々伝える学生の動きに、一喜一憂していました。こんな所にいるため、闘争に直接参加できず、もどかしく残念で残念でなりませんでした。4・28沖縄闘争は、権力の圧倒的な弾圧にもかかわらず、みんな本当によく頑張り、70年安保闘争の開始を告げるに足る偉大な闘いだったと思います。また、明治は、当日、昨年の10・21についで二回目の政治ストを行なったとのことですが、これからもドシドシ政治ストを打ち、全国の学生の闘いを領導し、70年安保闘争を前進させることすこれが、われわれの任務と信じて疑いません。

昨年の新聞にでていましたが、『中教審答申』その内容たるや、文部省の大学に対する権限強化、学生の政治活動制限・学生自治会への介入・教授の思想調査・レッドパージ・大学の封鎖廃校などと政治的弾圧以外のなにものでもありません。また、政府＝自民党はこの答申を基準として『大学紛争処理法案』（処理―この言葉の発想、これこそ彼らの本質）なるものの作製、今国会への上程を決定。先の次官通達（機動隊導入を自由に行なう目的）に続いて、このような権力の動きは、なにを意味するでしょうか。それは、一目瞭然、70年安保再改訂を直前に控え、70年安保闘争を圧殺せんと、権力が闘争の拠点＝大学に対して先制攻撃をかけてきたのです。従って、大学問題をめぐる、彼らの攻防こそ、当面の安保闘争の焦点としてクローズアップされてきたのであり、この闘いの勝利か、敗北かが、70年安保闘争の帰スウを、決すると思います。ですから『中教審答申』・『大学紛争処理法案』粉砕の闘いを、たゞちに組むことを、訴えます。

最後に、今まで面会差入れをしてくれた、数対の諸君、心から感謝しております。諸君の数対活動がどんなにか僕を、力づけてくれたことか。これからも、よろしくお願い致します。

保釈の日まで断固頑張ります。

（学生会中央執行委員長）